

景観まちづくり学習助成事業実施校 学校名 柏崎市立北鯖石小学校

① 学習指導案

プログラム	No. 3 「よくよく見れば あの場合に」 No. 5 「地域カルタをつくろう」
単元名(全70時間)	お宝発見！私たちの北鯖石・柏崎 全70時間
学習のねらい	柏崎の自慢やお宝を調べ、それを保護者や柏崎のことを知らない人に伝えることを通して、柏崎の「よさ」に気づき、ふるさとを大切にすることを育てる
学習内容	1 北鯖石のステキについて考える。No. 3 「よくよく見ればあの場合に」 2 自分たちの知っている柏崎の場所や行事のことをもっと詳しく知る。 3 自分たちの知らない（よく分からない）ステキについて知る。 4 北鯖石・柏崎のステキを紹介する。No. 5 「 地域カルタをつくろう 」
参考資料	観光パンフレット・ポスター、市立博物館
準備品	タブレット、メモカード、たんけんバック
実施場所等	○コミセン ○地域探検 ○ファームくじらなみ ○えんま市 ○海水浴場 ○花火大会 ○夢と森公園 ○赤坂山公園 ○ブルボン ○さけのふるさと公園 ○柏崎市立博物館

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
15	1 北鯖石のステキについて考える。 ・学校内外の、今まで気が付かなかった素材の面白さに気づき、紹介する。	・例を見せるとともに、タブレットの使い方を指導する。 ・クローズアップ写真を撮り、問題の作り方を指導する。	活動の意欲 (観察) 課題設定能力 (観察メモ) 表現力(作品)
20	2 自分たちの知っている柏崎の場所や行事のことをもっと詳しく知る。	・柏崎について情報を集め、発見したことを新聞にまとめて柏崎の魅力を実感させる。 柿団地、えんま市、サケのふるさと公園等を訪問し、人・動植物がかかわって景観を作り上げ郷土の文化になっていることに気付かせる。	課題設定能力 (観察メモ)
15	3 自分たちの知らない（よく分からない）ステキについて知る。	・柏崎について情報を集め、発見したことを新聞やポスターにまとめながら、柏崎の魅力を実感させる。	表現力(作品)
20	4 柏崎のステキを紹介する	・カルタ等の方法を示し、楽しく周知できる方法を検討させる。	

<留意点>

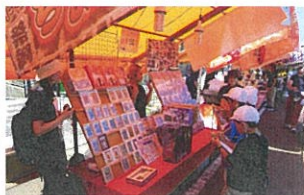
交通安全に配慮する。

行動の範囲を広げるため家庭に協力を求める。

② 事業実施報告書詳細

学校名 柏崎市立北鯖石小学校

時間数	場所	概要	活動記録（写真）	対象者の反応
10	教室 屋上 北鯖石 地区	「北鯖石」のステキってどんなところ？ ① タブレットの使い方練習を兼ねて、校舎内外の景観の写真撮影を行った。 ② 北鯖石のステキについて考えた。2年生時に生活科で行った地域巡りや屋上からの風景をもとに、計画を立てた。 ③ 校区内の地域探検をし、地域について調べた。	 中庭には何がある？  体育館には何がある？ 北鯖石地区探検  屋上から地区を見ました  	・タブレットの使用は初めてだったので、意欲的に活用していた。画面を通しての風景は普段と違い、新たな発見があった。 ・探検コースは、地域ごとに子どもたちが話し合い、みんなに知らせたい場所や見せたいものを紹介できるように、自分たちで考えた。 ・同じ北鯖石地域でも知らない場所や知らないことがまだまだ多くあることが分かった。
40	教室 柏崎市内	「柏崎」のステキってどんなところ？～柏崎の四季、観光 ① 柏崎の場所や行事のことをもっと詳しく知ろうと話し合い探検の場所を決めた。	 高柳自然王国	・各探検場所では個人でテーマを決めて「〇〇のステキ発見」の調査をした。

		<主な見学箇所> 高柳自然王国 赤坂山公園 えんま堂 さけの ふるさと公園 アクアパーク 柿団地 しもだ 越後バナーナ 夢の森公園 柏崎市立博物館	 柿団地  しもだ越後バナーナ  さけのふるさと公園  えんま市  柏崎市立博物館  問題です。 これは何でしょう？	- それぞれの場所でのインタビュー活動は、予想していたものよりも高度な内容が多く、子どもたちの頑張りに関心した。 - 見学後それぞれがタブレットを使い、文章や画像を工夫しながら、ポスターやパンフレット、新聞などにまとめていた。 - クローズアップ問題として周囲に提示することは、普段と視点が違い意欲的に取り組めた。
--	--	---	---	---

20	教室 北鯖石地区	柏崎を紹介しよう ① 柏崎のことを知らない人に、柏崎のステキについて紹介することになった。 ② 学級全体で紹介する内容や方法を考え、カルタやすごろく、新聞等にして発表することになった。 ③ グループごとにカルタやすごろくを使った紹介の準備をすすめ、柏崎のいいところカルタ大会やすごろく大会等の発表会を開いた。	   	5・7調の音と絵カードにより楽しみながら、柏崎のよさを知ることができた。 国語で学習したカルタ作りの経験が生かされ、工夫された言葉選びができていた。
----	-------------	---	--	--

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

体験を豊かにし、そこから生まれる課題意識を大切に展開した。2年生時の校区内の探検や社会科における地域の観察等と関連させて、調査活動を行うことで、対象（柏崎の自慢やお宝）に十分かわる時間を確保しようとした。そのことにより児童の対象への興味関心を高め、活動への意欲的な取組を引き出すことができた。また、体験を思考活動へのつなげるために、その後の言語活動を大切にした。その際、一人一人の気づきを言語化するだけでなく、みんなでその気づきを話し合うような場をタイミングよく設定した。そのことで、子どもは、対象への気づきを広げ、追究の意欲を高めながら活動に取り組んだ。最終的に「多くの人に知らせたい」という思いが高まったところで、地域発信をしかけ、一人一人の思いのつまった「カルタ」や「すごろく」、「地域新聞」を作成することができた。

一人一台の携帯用端末（タブレット）の活用が始まったため、No3「よくよく見ればあの場所に」プログラムを取り入れた。普段の視点と異なる風景に着目することで、未時間な風景関する関心が高まり、クローズアップ写真を活用した問題作りは意欲的に取り組めた。

(2) 実施にあたり苦労した点

校外学習における体験活動は、実施受入の有無や内容を天候や感染症等に左右されることが多い。そのため、計画どおりにいかないことが多々あり苦労した。

(3) 児童の反応

自分たちの学んだことを絵や言葉で「カルタ」や「すごろく」、新聞にまとめるだけでなく、それを発信活動に活用しようとして設定することで、子供たちの意欲が高まると同時に景観への見方や気づきが広がった。最終的なゴール（目的）を明確にすることで、調査活動やまとめの活動において豊かな感受性とコミュニケーションを最大限に生かして、よりよい言葉や絵に仕上げようと取り組むことができた。

タブレットを使用した活動には意欲的に取り組んだ。

国語の俳句作りで学習した、五・七・五のリズムになれる経験が大きく生かされ、意欲的なカルタ作りとなった

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

活動を充実していくには、子供の気づきを指導者がしっかりと把握しておく必要がある。学級全体での話し合いの後、一人一人の気づきを集積し、丁寧に見取る姿勢が見られた。

総合的な学習の時間は、ただ体験をすればよいというわけではない。「何のために体験をするのか、柏崎にどうなってほしいのか、自分たちに何ができるか」という気持ちを盛り上げながら、年間の活動をマネジメントしていた。

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

3年生は、地域を対象に総合的な学習の時間を進めている。対象が身近にあることで、たっぷりとかかわることができた。他の学年も、地域のひと・ものを対象とした学習が多く取り入れているので、地域に根差した活動となるよう、他の学年の内容と関連させながら、総合的な学習の時間のテーマや内容をさらに検討していくことが、今後の課題となる。